

本能寺の変遷

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



図1 本能寺が描かれた『洛中洛外図屏風』 米沢市上杉博物館所蔵(部分・調整)画面左が北

本能寺という寺名を聞いて多くの方がまず思い浮かべるのは「本能寺の変」でしょう。天正十年(1582)明智光秀は、備中高松城の毛利勢と対峙していた羽柴秀吉の加勢を命じられます。丹波亀山の居城を夜半に発ち、老ノ坂を越え沓掛に至ったところで急遽軍勢を洛中に向けます。本能寺に止宿していた織田信長を未明に攻撃したこの事変は小説やドラマでも頻繁に登場し、歴史上の大事件としてよく知られています。

ちなみに現在「本能寺」という寺は、寺町御池付近、京都市役所から御池通を隔てた南側に所在しています。この場所に本能寺が建てられたのは、本能寺の変後のこ

とで、変の起きた場所に再建されたわけではありません。秀吉の都市改造によって洛中の寺院が寺町に集められたときに、ここに移されたのです。

この事実は意外に知られておらず、現在の本能寺の前で「ここで本能寺の変があったのか…」などと観光客が話しているのを聞くことも少なくありません。

では、本能寺の変の舞台はどこであったのでしょうか。今回は2編にわけて、その本能寺の位置をめぐる歴史を記したいと思います。

本能寺は、創建当初「本応寺」と号し、応永二十二年(1415)日隆によって油小路高辻と五条坊門の間に建立された日蓮宗の寺院で

す(図2・本応寺)。

この本応寺は、日隆と妙本寺の月明との宗内対立の結果、妙本寺衆徒により破却されます。その後、寺号を本能寺と改め、永享五年(1433)に六角以南・四條坊門以北・櫛笥以東・大宮以西の方一町に再建されました。しかし、これも天文五年(1536)、いわゆる天文法華の乱によって壊滅します(図2・本能寺1)。

天文十六年(1547)には各地に離散していた法華宗の帰洛が許され、六角通・四條坊門通・油小路通・西洞院通に囲まれた地域に再興されました。再興はその数年前から準備されていたらしく、『本能寺文書』や『熊谷家文書』には

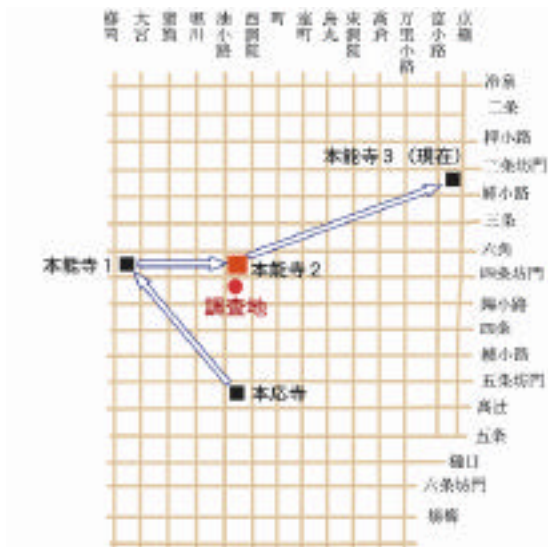


図2 本能寺の位置の変遷



図3 高橋康夫氏による下京復元図
『洛中洛外』1988年より一部改変

天文十四年（1545）、この方一町の土地を土倉の沢村氏から購入した記録が残されています（図2・本能寺2）。

この本能寺は天正期には信長の京における定宿として使われ、同十年六月二日、本能寺の変によって焼亡するまでこの地に存在していました。

本能寺の変の後、しばらくは寺地への立ち入りは禁止されていたのですが、七月には還住が許されます。同地で再建することが試みられたのですが、先述のようにその途中で豊臣秀吉の都市計画に従って現在の位置へと移されました（図2・本能寺3）。



写真1 調査で見つかった濠（東から）

信長が上杉家に贈ったとされる『洛中洛外図屏風』にはこの本能寺の変があった本能寺付近が描写されています（図1）。

本能寺の東を通る西洞院通の東側と南を通る四条坊門通（現在の蛸薬師通）の南側に沿って土堀が描かれており、西洞院には中央に川が流れています。これらの描写は当時、下京の町全体を守るため、町衆や寺院などが協力して下京の周囲に築いた防御施設（下京惣構）を表現したものです。

屏風絵では四条坊門通に掘られていた濠は土堀に隠されるような画角で描かれているため、その有無が明らかではありませんが、高橋康夫氏の下京の復元（図3）によれば、四条坊門通の南側に土堀と濠が想定されています。

2003年、この場所を発掘調査したところ、調査地の北端で幅4mあまりの濠が発見されました（写真1）。四条坊門通の南側に沿って濠の土堀北側に存在していたものと考えられます。この調査によって本能寺がこの濠より北側、す

なわち調査地の北側にあったことがあらためて確認されました。文献史料と絵画史料と考古学的成果が一致したことになります。

ところで、江戸時代の宝暦三年（1753）に、森幸安が作成した『中昔京師地図』には、南側の調査地を含めた南北二町が「本能寺地」として記載されています。これは上述の事実関係から見れば明らかに誤りなのですが、この絵図は後の地誌などに影響を与え、たとえば『京都府目録』などには「東西一町、南北二町」と記されているように、後代には南北二町が通説となったようです。また、調査地にあった旧本能小学校の校名にも本能寺の故地という意味が込められています。幸安が『中昔京師地図』の作成にあたり、なぜ南北二町を本能寺地として指定したのかは疑問が残るところです。幸安は室町時代の史料を知らなかったのでしょうか。次号ではそのあたりのことを考えてみようと思います。

（平尾 政幸）